



学校だより

<http://fussa-3e.hs.plala.or.jp/>

令和5年8月29日
福生市立福生第三小学校
校長：浅倉 宏之
住所：福生市牛浜162
電話：551-0249

かけがえのない命を守るために

校長 浅倉 宏之

39日間の夏休みが終わりました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、夏恒例の行事などもコロナ前に戻り、コロナ以前のフルに楽しめる夏休みを満喫した人も多かったのではないのでしょうか。学校には子供たちの元気な声が響き、活気が戻ってきました。今夏も厳しい暑さの日が多く、東京都心での猛暑日は21日(8/21)となり、観測史上最多日数であった昨年の16日を既に超えてしまいました(気象庁)。各地で熱中症などの被害も多数発生し、命を落とす子供たちさえ出てしまいました。熱中症指数(WBGT)の上限である31℃(野外での運動の原則禁止)を超えてしまうことが多く、本校でも夏季水泳が全20回中11回が中止となってしまいました。運動中もさることながら、登下校中の熱中症の危険性も軽視はできず、夏季水泳指導の在り方も考えていく必要があるかもしれません。まだしばらくは危険な暑さが続きそうです。引き続き、熱中症予防のための指導や対策に取り組んでいきます。御家庭でも、引き続き登下校時や運動時等にはマスクを外す、適宜水分を補給するなど、お子さんへの言葉掛けを引き続きお願いします。

さて、9月1日は防災の日です。1923年9月1日に『関東大震災』が発生したことに加えて、台風の襲来が多いとされる二百十日にあたり「災害への備えを怠らないように」との戒めも込め、制定されました。関東大震災の死者・行方不明者は10万5000人と言われ、台風による強風が吹いていたことも、多くの方の命を奪う甚大な被害につながったと言われていいます。『阪神・淡路大震災』では、大きな揺れによる建物の崩壊と火災で、『東日本大震災』では、大津波によって多くの尊い命が失われました。また、近年では日本各地で記録的豪雨による河川の氾濫や土砂災害など、甚大な被害の発生が続いています。

自然は時に私たちの想像を超える被害をもたらし、尊い人命を奪うこともあります。『南海トラフ地震』が近い将来必ず発生するとも言われています。いつ、どこで発生するか分からない自然災害ですから、場合によっては、子供であっても自分の命は自分で守らなければならないこともあるはずです。東日本大震災で津波の被害を受けた三陸地方の釜石市では、昔から伝わる『津波てんでんこ』（海岸に近い場所で強い揺れを感じたら、津波が来るから各自ばらばらに高台に避難して、自分の命を自分で守れと言う意味）を繰り返し訓練していました。このおかげで当時の児童・生徒たちは大津波警報を聞くと、訓練どおりに高台に避難し、津波の被害を逃れることができたという話は有名です。火災・地震・不審者対応訓練等、学校で毎月設定している避難訓練は様々な災害に対応できるように計画して行っているのはこのためです。いつ、どこで、どのような災害が起こるかをあらかじめ知ることはできませんが、日頃から備えておくことはできます。いざというときに自分の命を守るための行動をとれるようになるには、繰り返し訓練することが大切です。

9月13日(水)は引き渡し訓練です。平日で御多用のところ、大変恐縮ではございますが、可能な限り御参加くださいますようお願いいたします。そして、災害が起きたときにどうするか、御家庭で話題にしていいただければと思います。